Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

12-17歳の大うつ病性障害患者に対する第一選択薬としてのescitalopramの臨床的有用性に関する後方視的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大下, 隆司 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31546

主 論 文 の 要 旨

12－17 歳の大うつ病性障害患者に対する第一選択薬としての escitalopram の臨床的有用性に関する後方視的研究

東京女子医科大学精神医学教室
（指導：石郷岡純教授）
大下　隆司

東京女子医科大学雑誌　第 86 巻　第 E1 号　E67 頁～E72 頁（平成 28 年 1 月 31 日発行）に掲載

【要　旨】

Escitalopram を思春期大うつ病性障害に第一選択薬として用いた臨床上の有用性について治療記録から検討した。2013 年 1 月～2015 年 3 月に東京女子医科大学及び代々木の森診療所を受診した ICD-10 の F32、F33 に該当する 12－17 歳で、抗うつ薬服用歴がなく escitalopram で治療された患者を対象とした。有効性は開始時、1、2、4、8、12 週後に評価された Hamilton’s Rating Scale for Depression 17 items (HAM-D17)、Hamilton Anxiety Rating Scale (HAM-A)、Clinical Global Impression of Severity (CGI-S) によった。53 例（男性 20 例：15.4±1.4 歳、女性 33 例：15.9±1.1 歳）を有効性評価対象とした。12 週後の投与量は 15.4±5.2mg/日、各評価尺度総スコア（開始時、12 週後）は、HAM-D17：22.8±6.7、7.0±7.1、HAM-A：25.6±6.8、6.3±6.4、CGI-S：5.1±0.9、2.1±1.2 と有意に改善、各総スコアは 1 週目より有意に改善した。改善率は 4 週目まで HAM-A が HAM-D17 を有意に上回り、8 週目以降は有意差が消失した。不安重症度群の寛解率は中等症群より有意に低かった。有害事象は 56 例中 17 例 22 件認められ 3 例が服用中断、それ以外は軽度で投与期間中に症状消失した。Escitalopram は 12－17 歳の大うつ病性障害に優れた有効性と安全性を示し、思春期大うつ病性障害の第一選択薬に位置する可能性が示唆された。